

課題解決型高度医療人材養成プログラム申請書 (健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成)

【様式B-1】

事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	東京医科歯科大学 (東北大学、新潟大学、東京歯科大学、日本歯科大学) 計5大学		
取組	1 - (3)	申請区分	共同事業
事業名 (全角20字以内)	健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム		

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

〈テーマに関する課題〉

我が国においては、平均寿命の延伸に伴い健康寿命との差が拡大し、日常生活に制限のある「不健康な期間」が長期化する傾向が指摘されている。これは個人の生活の質の低下を惹起するとともに、医療費や介護給付費等の社会保障負担の増大を生じ、国家財政を圧迫して、ひいては国力の低下を及ぼすことが懸念されている。

口腔は、豊かな食生活、家族や友人とのコミュニケーション、心地よい呼吸といったヒトが心身の健康を良好に保ちながら人間らしく生活するために欠かせない重要な機能を担う器官であるが、一旦その恒常性が破綻して健康度が低下すると、全身の健康状態にも悪影響を及ぼす可能性がある。超高齢社会への対応は喫緊の課題であり、健康長寿社会の実現には高齢者・要介護者への対応が肝要であると考えられがちだが、口腔領域の健康は高齢期を迎えてから対応するのではなく、成長期から継続的に対応していく必要がある。すなわち、若年期を含めたあらゆるライフステージにおける口腔の健康増進、口腔領域の疾患制御と機能回復を図ることが、健康長寿社会の実現、国民のQOL向上には必要不可欠である。しかしながら、現行歯学教育には以下の課題が残されており、早急に対応しなければならない。

- 1) 旧来型の技術教育の偏重、国家試験至上主義の暗記主義教育による問題解決能力開発が不足しており、また新たな歯科ニーズ、社会課題に対応できる教育システムへの移行が遅れている。
- 2) 歯科が医療の1分野であることを意識させ、全身疾患との関連を体系的に習得させるシステムが十分に整備されていない。
- 3) 新規医療技術開発に向けて革新的進歩を続ける他分野との連携、コメディカルスタッフ等の他職種とスムーズな連携が図ることができる歯科医療人の養成が十分になされていない。
- 4) 超高齢社会の更なる進展に伴い、大きく変化する医療現場において、全人的医療を担うチームの一員として適切かつ効果的に行動できる歯科医療人を養成するための教育がなされていない。
- 5) 歯学教育モデルコアカリキュラムが策定されているものの、現代社会ニーズに対応した教育プログラムの共有化が進んでおらず、優れた取組の全国波及・展開が遅れている。

〈事業の概要〉（400字以内厳守）

本プログラムは、歯学教育分野で先導的な役割を果たしてきた5大学が国立私立の枠を超えてコンソーシアムを形成し、**各大学の強みである教育資源を共有・補完することで、健康長寿を育む為のあらゆるライフステージに対応した全人的歯科医療を担う人材養成の実現を目指す。**

具体的には、各大学が個性を生かした学部学生対象コースを新設し、教育コンテンツを開発、アーカイブ化し、e-learningや教員の相互乗り入れにより、シームレス且つボーダレスな共同利用を行う。また、シンポジウム、FD等の共同開催により、学部学生や教員の知識・技能の向上を図り、研修医、大学院生等への卒後教育への波及効果も期待する。更に得られたプロダクト、教育成果をHP、学会等を通じて**全国発信・共有化を図り、歯学教育の高度化、標準化を目指す。**

また、本コースを既存の教育課程に取り込み卒業要件の一部とすることで、上記課題を解決する人材養成を促進する。

②大学・学部等の教育理念・使命（ミッション）・人材養成目的との関係

各連携大学の教育プログラムコースは、以下のとおり各大学のミッション及び理念に合致しており、その達成を加速化させることを目指している。

【東京医科歯科大学：長寿口腔健康科学コース】

本コースは、医学と歯学の総合医療大学という強みを生かし、医歯学融合教育を軸とした幅広い年齢層への健康長寿に対する先進的研究開発、教育の面からのアプローチができる人材及び地域医療の中で、多職種連携を主導することができる人材養成を目標としており、当大学のミッションである国際感覚に優れた歯科医師・歯科医療技術者・研究者養成、医歯学融合教育や世界的視野での歯学教育の標準化、医歯学連携による歯科材料開発、先端の歯科医療推進に合致している。

【東北大学：異分野連携イノベティブ歯学展開コース】

本コースは、医学、工学、栄養学、農学、社会科学等、異分野領域と連携して次世代型の歯学を創出できる人材、広範な学問分野の融合知と高い倫理観をもって歯科医療に取り組める高度医療人としての資質を備える人材養成を目標としており、当大学のミッションである「研究第一」、「実学尊重」、「門戸開放」に基づく世界をリードする研究者・教育者の養成、バイオマテリアル・歯学再生医療等の創造的異分野融合研究の先導的役割に合致している。

【新潟大学：口腔機能管理学コース】

本コースは、地域包括ケアを理解し、他職種連携・地域協働により活躍できる歯科医療人材、摂食機能のリハビリテーションを通して、摂食と嚥下機能の連関を理解し、地域社会で食機能支援ができる人材の養成を目標としており、当大学のミッションである課題解決能力等を培った歯科医師養成と国内外の人材養成モデルの構築、口腔QOL向上を目指した基礎・臨床研究、有病・高齢者への対応や歯科再生医療の実践に合致している。

【東京歯科大学：地域社会に学ぶ新たな歯科医療プロフェッショナルコース】

本コースは、様々な幅広い医学的・社会的知識を持ち、最適な歯科医療を提供し生活の質の向上を図ることができる人材、口腔機能の維持と管理を啓発し地域の保健活動に貢献できる人材、生活習慣病をはじめとしたcommon diseaseの知識を有し、的確に患者の全身状態を評価して安心・安全な歯科医療を提供できる人材の養成を目標としており、当大学のミッションである、ライフ・サイエンスに基づいた「歯科医学」と先進技術に基づいた「歯科医療」の展開、医療の心である「ケアの精神」に基づいた歯科医療の実践のための人間性教育等に合致している。

【日本歯科大学：地域連携ケアコース】

本コースは、医療・介護・福祉の有機的な連携に基づく地域包括ケアシステムを構築できる人材、リハビリテーション医学に関する知識や口腔機能に影響を及ぼす様々な疾患に関する知識のある人材、要介護者への食生活への支援を通じ、人間としての尊厳を保つための援助である生活支援や人生支援ができる人材養成を目標としており、当大学の基本理念である「高等教育機関として、広く知識を授けると共に、深く歯・顎・口腔の医学を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、もって人類の文化の発展と福祉に寄与し、国民の健康な生活に貢献することを使命とする。」に合致している。

各大学で実施されるプログラムは、それぞれの大学のミッション・理念と密接に結びつき、更に供出されるコア科目は、それぞれの大学がもっとも得意とする分野である。これらは、本取組みの要点である異分野融合による先端的な歯科医療開発、地域歯科保健医療及びチーム医療の推進、医歯学融合による全人的歯学教育モデルの構築、世界的視野での歯学教育の標準化等のすべてに深く関連し、各大学の人材養成目的に合致した取組みであると考えられる。

③新規性・独創性

全国の多くの大学歯学部・歯科大学では、これまでに健康長寿社会の実現を目指して次代の歯科医療人養成のためのカリキュラム改変並びに授業・実習改善が行われてきたが、単独の大学の取り組みだけでは、効果は限定的となり、我が国の歯学教育の中で一般化・標準化されるまでには至っていない。

そこで本事業では、先進的且つユニークなカリキュラムを実践する国立、私立の5大学がコンソーシアムを形成し、それぞれが保有する特色ある教育資源を生かしながら大学間の壁を越えて授業科目を相互活用することにより、学生教育のシナジー効果を生み出すことを目標としている。

本取組は将来的には、新たに開発した教育コンテンツをe-learning化して全国波及させ、全国標準化を目指しており、このような国立・私立大学の枠を超えた取組は、これまでの歯学教育の現場では行われていない。また、独創的な点として以下の点が挙げられる。

1) 健康長寿を育む歯学教育プログラムとして、各大学がそれぞれ新たにコア科目と独自科目から編成されるコースワークを設置し、各々の人的・設備的基盤、地域連携基盤等に立脚して発展させてきた厳選されたモジュールをコア科目として共有化することにより、各大学の特色ある教育資源を提供・補完する。これにより単独の大学では達成しえなかった包括的な歯学教育が実現可能となる。

2) 健康長寿の達成は、高齢者医療の充実だけに焦点が向けられがちであるが、小児から老年期にかけてのあらゆるライフステージを対象にしている。また一般患者のみならず障害者や先天異常患者のような社会的弱者にも対応できるシームレスな全人的歯科医療の開発と実践を担う人材育成のための教育基盤形成を行うことが可能となる。

3) 多職種協働をベースとして、口腔ケア、口腔リハビリ、摂食嚥下障害に対応可能かつ地域社会における包括ケアに貢献できる歯科医師の養成教育を、我が国の最先端をいく連携施設・地域福祉機関の協力を仰ぎながら実践することが可能となる。

4) 異分野融合型の歯工連携教育により、産学連携による新たな歯科医療創出のための先端歯科医療技術・機器開発を担う人材養成が可能となる。

④達成目標・評価指標

【達成目標】

- ・本事業を通じて開設した各大学の独自コースを必修化し単位を付与する。(平成26年度の在學生は選択科目として受入れを開始し、平成27年度の新入生からは卒業要件への追加を行う。)
- ・開発した教育コンテンツをe-learning教材のライブラリーとしてアーカイブ化し、コンソーシアム内で相互利用を可能とするとともに、将来的には外部教育機関に公開し、全国波及させる。
- ・新規に設置するコースを履修した學生が、将来コンソーシアムの大学院博士課程に進学し関連した研究に従事するようなキャリアパスを形成する。

【評価指標】

- ・コース履修學生数の集計結果と授業・実習に関するアンケート調査結果
- ・e-learningのコンテンツ数とその受講生数
- ・コース履修學生の大学院博士課程への進学率の追跡調査結果

⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画,働きやすい職場環境,勤務継続・復帰支援等も含む。)

本取組は学士課程教育での取組みであるが、必修化された歯科医師臨床研修での基礎研修を経て、大学院進学、専門医取得、一般歯科医師の生涯学習に資するため、取組内容、教育内容等の情報を作成予定のホームページ上で公開するとともに、受講學生アンケート及び教員アンケート結果、学会・シンポジウム発表での討論結果をもとに事業推進委員会でアドバンス的内容の検討を行い、取組終了時までには、アドバンス・カリキュラムを策定・公開する。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式B-2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

- ・本プログラムの実施にあたっては、歯学教育コンソーシアム事業推進委員会を設置する。
- ・この委員会では、幹事校の東京医科歯科大学がプログラムの実施に関して中心的な役割を担い、連携する他の4大学とともに、この事業に参画している各大学教員の合同FDや教育シンポジウムの開催などを企画運営する。
- ・本事業の事務局は、幹事校が担当する。
- ・共通授業に必要なe-learningシステム等は初年度に各大学への予算措置により整備する。
- ・毎年度、合同FDやシンポジウム、評価委員会を開催し、プログラムの成果の評価やフィードバック、教員に対する本プログラムに対する意識を高めるものとする。
- ・本プログラムは、各大学及び基礎・臨床など各専門分野の教員が実施する。

②事業の評価体制

- ・各大学は、毎年事業運営上の評価、達成度の自己点検評価を実施する。
- ・その内容を踏まえて、歯学教育コンソーシアム事業推進委員会の中に内部評価委員会を立ち上げて、全体的な内部評価を行う。
- ・内部評価委員会は、各大学に対して事業内容改善などの助言を行うとともに、歯科医療人養成計画の改訂を行う。
- ・外部委員による第三者評価を行う。（平成28年度：中間評価）（平成30年度：最終評価）

③事業の連携体制（連携大学、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

- ・東京医科歯科大学、東北大学、新潟大学、東京歯科大学及び日本歯科大学の連携5大学が合同で歯学教育コンソーシアム事業推進委員会を組織し、本プログラム全体の調整、シンポジウム・FDの企画、立案を行う。
- ・本委員会の構成は、各大学の教育委員長及び授業担当分野長など、後述の連携大学の各種委員会メンバーとする。また、各大学においても同様の実施委員会を組織し、担当分野教員とともに、コースの計画を立案し、自大学のカリキュラムに反映させる。
- ・事業を推進する上で、大学内の他部局との連携のほか、以下の機関との連携を行いながらプログラムの充実を図る。（東京大学高齢社会総合研究機構、東京大学医学部在宅医療学拠点、新潟市社会福祉協議会、介護老人保健施設「池袋えびすの郷」、グループホーム「白山みやびの郷」、口腔リハビリテーション多摩クリニック）
- ・これらの連携機関については、既に各大学との独自の連携実績が担保されているため、本事業の連携体制を構築することにより、それを更にコンソーシアム全体へと広げる機会となり、そのメリットは顕著である。

(2) 事業の継続・普及に関する構想等

①事業の継続に関する構想

本コースは、すべて継続性が重要と考えられるため、当該事業の支援期間終了後も各大学の負担で事業継続するものとする。学年中途から本事業が適用される学年においては、選択科目として各年次の現行カリキュラムの中に位置付けられる。平成27年度からの新入生に対しては、必修授業としてカリキュラムに組み込むとともに卒業要件に加えることとし、当該事業の支援期間終了後も当該大学において必修のカリキュラムとして継続される。また、本取組みは学士課程教育での取組みではあるが、歯科医師臨床研修、大学院進学、専門医取得、一般歯科医師の生涯学習に資するべきものである。すなわち、学年進行により初期臨床研修、大学院に進学する学生が出てくる年次には、本プログラムの趣旨に合致する新たなコース開設を計画する。受講学生及び教員アンケート結果、学会・シンポジウム発表での討論結果をもとにアドバンス的内容の検討を行い、取組終了時までに、アドバンス・カリキュラムを策定・公開する。また、作成された授業・e-learningのコンテンツはアーカイブ化し、以降継続される授業に活用するものとする。

②事業の普及に関する計画

・平成26年度に、本プログラムの趣旨を連携大学及び全国歯科大学・歯学部を広めるため、公開キックオフシンポジウムを実施する。

・事業推進委員会委員が連携校にて本取組内容等について、教員FDとして説明し、さらに各大学対象学生に取組の社会的背景、コース説明及びキャリアパスについて説明する機会を設ける。

・平成27年度以降も、合同FD、公開教育シンポジウム、サマースクールを開催し、本プログラムの普及に努める。また、卒後教育への波及を視野に入れて、連携スクール等を開催して大学院の連携教育を充実させるとともに、教員間で情報共有を行い事業展開に向けての協議を行う。

・日本歯科医学教育学会、日本医学教育学会などの医歯教育系学会に本事業内容を紹介するために、ポスターなどの演題発表を行うとともに教育プログラム内容に関連した専門学会にも積極的に参加して、情報提供と意見交換を行う。

・シンポジウムにおいては、可及的に海外の教育者を招聘し、海外との情報交換を行うとともに、ホームページの立ち上げ、パンフレットの作成により、事業内容を社会へ周知する。

(3) 事業実施計画

26年度	<ul style="list-style-type: none"> ①8～10月 各大学における本年度コース授業の構築準備 ②8～3月 事業推進委員会（共有授業の設計、コース内容の充実等） ③11月 今年度授業カレンダー確定、プログラムHPを公開 ④11～12月 各連携大学において教員FDを開催 ⑤11～12月 キックオフシンポジウムの開催 ⑥12～2月 平成26年度コース履修説明、プログラム学生登録 ⑦12月 平成26年度コース授業の実施 ⑧2月 次年度授業カレンダー確定 ⑨3月 受講学生及び教員に対するアンケートの実施 ⑩3月 評価委員会（平成26年度評価）
27年度	<ul style="list-style-type: none"> ①4月 平成27年度コース履修説明、プログラム学生登録 ②4～2月 平成27年度コース授業実施 ③4～2月 事業推進委員会（コース内容の充実等） ④4～2月 合同FD・教育シンポジウムの開催 ⑤7月 サマースクール開催 ⑥2月 次年度授業カレンダー確定 ⑦3月 受講学生及び教員に対するアンケートの実施 ⑧3月 評価委員会（平成27年度評価）
28年度	<ul style="list-style-type: none"> ①4月 平成28年度コース履修説明、プログラム学生登録 ②4～2月 平成28年度コース授業実施 ③4～2月 事業推進委員会（コース内容の充実等） ④4～2月 合同FD・教育シンポジウムの開催 ⑤7月 サマースクール開催 ⑥2月 次年度授業カレンダー確定 ⑦3月 受講学生及び教員に対するアンケートの実施 ⑧3月 評価委員会（平成28年度評価及び第三者による外部中間評価）
29年度	<ul style="list-style-type: none"> ①4月 平成29年度コース履修説明、プログラム学生登録 ②4～2月 平成29年度コース授業実施 ③4～2月 事業推進委員会（コース内容の充実等） ④4～2月 合同FD・教育シンポジウムの開催 ⑤7月 サマースクール開催 ⑥2月 次年度授業カレンダー確定 ⑦3月 受講学生及び教員に対するアンケートの実施 ⑧3月 評価委員会（平成29年度評価）
30年度	<ul style="list-style-type: none"> ①4月 平成30年度コース履修説明、プログラム学生登録 ②4～2月 平成30年度コース授業実施 ③4～2月 事業推進委員会（コース内容の充実等） ④4～2月 教育シンポジウムの開催 ⑤7月 サマースクール開催 ⑥2月 次年度授業カレンダー確定 ⑦3月 受講学生及び教員に対するアンケートの実施 ⑧3月 評価委員会（平成30年度評価及び第三者による外部最終評価）
31年度 [財政支援 終了後]	<p>財政支援後も各大学において事業は継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①4月 平成31年度コース履修説明、プログラム学生登録 ②4～2月 平成31年度コース授業実施 ③2月 次年度授業カレンダー確定

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京医科歯科大学歯学部
教育プログラム・コース名	健康長寿を育む歯学教育プログラム（長寿口腔健康科学コース）
対象者	必修コース：歯学生2年次～6年次　選択コース：歯学生2年次～6年次 なお、選択コースは臨床研修医、大学院生に公開講座として受講可能とする。
修業年限（期間）	必修コース：5年　選択コース：2～5年
養成すべき人材像	・幅広い年齢層の患者の生理、疾患、栄養、食育に関する知識を十分に備え、安心安全の歯科医療を通じて患者の生活の質の向上を図ることができる人材 ・住み慣れた土地で生き生きとした質の高い生活が送れるように、地域医療の中で、多職種連携を主導することができる人材
修了要件・履修方法	必修コース（平成27年度以降入学者対象） 共有必修科目及び個別必修科目の全ての授業を受講すること。なお、共有必修科目は、e-learningやDVDを用いた履修を行うことも許可する。修了要件は、レポート提出・筆記試験に合格すること。合格した場合、2単位を与える。 選択コース（平成26年度までの在校生対象） 必修コースと全く同じ科目を全て受講すること。共有必修科目はe-learningやDVDを用いた履修を行うことも許可する。修了要件はレポート提出・筆記試験に合格すること。合格した場合、2単位を与える。
履修科目等	<共有必修科目> 摂食嚥下のメカニズム（3h）、長寿を支える硬組織バイオロジー（3h）、異分野融合型先端歯学・歯科医療（3h）、テイラード・コミュニケーション概論（3h）、地域連携と摂食支援（3h）　計15時間 <個別必修科目> アドバンス病態科学（3h）、健康長寿の医療政策学・経済学（3h）、在宅における摂食嚥下評価（6h）、地域包括ケアシステム論（3h）　計15時間
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	①高齢者の健康長寿を実現するためには生活の質を保ち、社会的に活動することが肝要である。そのため、体や歯の機能を支える骨に関する知識を深めることが、重要である。東京医科歯科大学では、医学と歯学の医療系総合大学という強みを生かし、従来より硬組織関連に関する研究、教育が活発であった。これらの成果を学部教育に還流し、ライフステージに合わせた口腔健康を育むことにより、健康長寿教育に貢献しようというところに新規性がある。 ②現在、医歯学融合教育が医学科と歯学科で実施されており、2、3年次の両学科の学生が同時に授業実習を行い、歯学科学生の意識を高めることに成功している。この流れを生かし、全身疾患に関する教育を低学年で増強し、医学に関するより深い知識を持ち、ライフステージに併せた全人的な歯科医療を実践できる歯科医師を養成する。 ③他職種と協同して、口腔ケア、口腔リハビリ、摂食嚥下障害に対応でき地域社会における包括ケアに貢献できる歯科医師の養成を東京大学高齢者総合研究機構開発の協力を仰いで実施する。 ④平成27年度新生入生からは、必修としてカリキュラムに組み込む。これまで本学で取り組んできた医歯学融合教育とともに、独創性のある充実した超高齢社会対応のカリキュラムが完成する。

指導体制	<p>学部長及び教育委員長が、緊密に連携し、本コースの企画・運営を担当する。各科目の授業内容の決定は、関連大学院分野の責任者が合同で行う。実際の授業は本学大学院教員及び連携大学教員が担当する。教育委員会は決定された授業内容の確認を行うとともに、授業担当者が行う実際の授業について直接参観あるいはビデオ撮影し適切な授業であるかをチェックする。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>本コース修了者は、現在予定している初期臨床研修におけるカリキュラムを履修させる。大学院は、関連する分野（本学あるいは連携大学）に進学して教育研究を行い、学位取得を目指す。その後に関連学会の専門医等取得後、健康長寿に貢献できる歯科医療人として、様々な部門（教職、研究職、行政職、病院勤務、企業研究所勤務等）で活躍する。</p>						
受入開始時期	<p>平成26年12月から開始※ ※平成26年度までの在學生は選択コースとして受け入れを開始し、平成27年度以降の入學生は必修コースとして適用する。</p>						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	歯学生	40	53	53	53	53	252
							0
							0
							0
	計	40	53	53	53	53	252

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東北大学歯学部
教育プログラム・コース名	健康長寿を育む歯学教育プログラム（異分野連携イノベティブ歯学展開コース）
対象者	必修コース：歯学生5年次～6年次 選択コース：歯学生5年次～6年次 なお、選択コースは臨床研修医、大学院生に公開講座として受講可能とする。
修業年限（期間）	必修コース：2年 選択コース：2年
養成すべき人材像	・医学、生命科学、工学、栄養学、農学、社会科学等、異分野領域と連携して次世代型の歯学を創出できる人材 ・広範な学問分野の融合知と高い倫理観をもって歯科医療に取り組める高度医療人としての資質を備える人材
修了要件・履修方法	必修コース（平成27年度以降入学者対象） 共有必修科目及び個別必修科目の全ての授業を受講すること。なお、共有必修科目は、e-learningやDVDを用いた履修を行うことも許可する。成績評価は、レポート提出、筆記試験等による。合格した場合、2単位を与える。 選択コース（平成26年度までの在校生対象） 必修コースと全く同じ科目を全て受講すること。共有必修科目は、e-learningやDVDを用いた履修を行うことも許可する。成績評価は、レポート提出、筆記試験等による。合格した場合、2単位を与える。
履修科目等	<共有必修科目> 摂食嚥下のメカニズム（3h）、長寿を支える硬組織バイオロジー（3h）、異分野融合型先端歯学・歯科医療（3h）、テイラード・コミュニケーション概論（3h）、地域連携と摂食支援（3h） 計15時間 <個別必修科目> 口腔から始まる再生医療（3h）、歯学発の医療機器・技術イノベーション（3h）、口腔が支える食と健康（3h）、異業種連携で進化する口腔ケア・リハビリテーション（3h）、社会と医療を繋ぐ歯科情報倫理（3h） 計15時間
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	① 5年次学生を対象とする分野融合的授業「合同講義」と6年次学生を対象に高度医療人の基盤づくりを目指す「臨床講義」の実績を土台とし、異分野融合型の高度医療人養成コースである「歯学イノベーション教育プログラム」を開講する。 ② 平成14年より「インターフェイス口腔健康科学」の理念の基に行ってきた医学、工学、材料学、農学等との分野連携型の教育実績を基盤として「異分野融合型先端歯学・歯科医療」を開講し、これからの健康長寿社会への貢献を先導する。 ③ ②での概論に引き続き、口腔領域の特徴に基づくハイブリットな再生歯学「口腔から始める再生医療」、歯学異分野融合の理と利を活かした医療機器技術開発論「歯学発の医療機器・技術イノベーション」、口腔という食や健康の入り口を考察する「口腔が支える食と健康」、異分野融合による新たな口腔ケア・リハビリテーション論「異業種連携で進化する口腔ケア・リハビリテーション」、そして社会との関係性を考察する「社会と医療を繋ぐ歯科情報倫理」を開講する。 ④ とくに、平成24年度から5年次学生を対象とした「社会倫理」「生命論理」「医の倫理」を融合した独自のカリキュラムを創出し開講している。また、平成25年には歯科法医情報学分野を新設し、社会と歯科情報とのあり方について先進的な研究教育を行っている。これらの基盤に立って、歯科情報倫理の授業を構築する。

指導体制	<p>学部長及び学部教務委員会が、緊密に連携し本コースの企画・運営を担当する。各科目の授業内容は、授業担当責任者等で構成される授業実施委員会で決定する。実際の授業は本学教員及び連携大学教員が担当する。学部教務委員会は決定された授業内容の確認を行うとともに、授業担当者が行う授業について適切な授業であるかをチェックする。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>本コース修了者は、現在予定している初期臨床研修におけるカリキュラムを履修させる。大学院は、関連する分野（本学あるいは連携大学）に進学して教育研究を行い、学位取得を目指す。その後に関連学会の専門医等取得後、歯学イノベーションに貢献できる高度医療人として、様々な部門（教職、研究職、行政職、病院勤務、企業研究所勤務等）で活躍する。</p>						
受入開始時期	<p>平成26年12月から開始※ ※平成26年度までの在学学生は選択コースとして受け入れを開始し、平成27年度以降の入学者は必修コースとして適用する。</p>						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	歯学生	53	53	53	53	53	265
							0
							0
							0
	計	53	53	53	53	53	265

教育プログラム・コースの概要

大学名等	新潟大学歯学部
教育プログラム・コース名	健康長寿を育む歯学教育プログラム（口腔機能管理学コース）
対象者	必修コース：歯学生2年次～6年次 選択コース：歯学生2年次～6年次 なお、選択コースは臨床研修医、大学院生に公開講座として受講可能とする。
修業年限（期間）	必修コース：5年 選択コース：2～5年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアを理解し、他職種連携・地域協働により活躍できる歯科医療人材 ・小児から障がい者、有病高齢者、要介護高齢者までの口腔機能・健康の特性を理解し、その特性に基づき、口腔保健・歯科医療活動が展開できる人材 ・摂食機能のリハビリテーションを通して、摂食と嚥下機能の連関を理解し、地域社会で食機能支援ができる人材 ・障害者等の社会的弱者の特性を理解し、適切な対応がとれる人材
修了要件・履修方法	<p>必修コース（平成27年度以降入学者対象） 共有必修科目及び個別必修科目の全ての授業を受講すること。なお、共有必修科目は、e-learningやDVDを用いた履修を行うことも許可する。修了要件は、レポート提出・筆記試験に合格すること。合格した場合、2単位を与える。</p> <p>選択コース（平成26年度までの在校生対象） 必修コースと全く同じ科目を全て受講すること。共有必修科目はe-learningやDVDを用いた履修を行うことも許可する。修了要件はレポート提出・筆記試験に合格すること。合格した場合2単位を与える。</p>
履修科目等	<p><共有必修科目> 摂食嚥下のメカニズム（3h）、長寿を支える硬組織バイオロジー（3h）、異分野融合型先端歯学・歯科医療（3h）、テイラード・コミュニケーション概論（3h）、地域連携と摂食支援（3h） 計15時間</p> <p><個別必修科目> 地域協働と他職種連携（3h）、口腔環境の変化とその対応（3h） 加齢・発育に伴う口腔機能管理（3h）、口腔機能の変化とその対応（3h）、口腔リハビリテーション（3h） 計15時間</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>① 健康長寿社会の実現には、単なる高齢者への対応ばかりでなく、長いライフスパンを見ずえることのできる人材育成が必要であるという考えから、本コースでは「成長・発育、加齢」を念頭に置いたプログラム構成とし、社会歯学系、基礎歯学系、臨床歯学系の内容による統合型の授業内容としている。</p> <p>② 各コースユニットは3時間を基本とし、健康長寿社会実現に不可欠と考えられているキーワードに対して、他方面から授業が展開できるようにユニットを構成している。</p> <p>③ 本学では本邦で初めて加齢歯科学講座を設置し、この講座を発展させ、現在では摂食嚥下リハビリテーション分野として教育・研究・診療・社会貢献活動を行っている。また本コースのメインテーマは、ミッションの再定義でも大学の強みとして取り上げられている内容である。このことは本学の特色ある教育資源を提供することにより、本コンソーシアム、さらには日本の歯学教育の高度化につながる。</p> <p>④ 連携先として学内では地域地場産業と食に関する共同研究を行っているフードサイエンスセンター、学外では地域社会福祉施設があり、他職種連携、地域連携といった歯学に求められている新たなニーズに対応している。</p> <p>⑤ 平成28年度（第3期中期目標・計画期間）から新カリキュラムに移行することとしており、平成27年度新入生からは、必修科目としてカリキュラムに組み込む。</p>

指導体制	<p>学部長の下の新潟大学歯学部学務委員会内に本コースプログラム実施委員会を設置する。委員としては学部長、学務委員長に加え、本コースを担当する教員6名とし、計8名で実施委員会を構成する。コースディレクターとして、摂食嚥下リハビリテーション分野担当教授を、また基礎歯学・社会歯学系分野教授からサブコースディレクターをあて、教育内容を含めプログラム管理を行う。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>本コース修了者は、現在予定している初期臨床研修におけるカリキュラムを履修させる。大学院は、関連する分野（本学あるいは連携大学）に進学して教育研究を行い、学位取得を目指す。その後に関連学会の専門医等取得後、健康長寿に貢献できる歯科医療人として、様々な部門（教職、研究職、行政職、病院勤務、企業研究所勤務等）で活躍する。</p>						
受入開始時期	<p>平成26年12月から開始※ ※平成26年度までの在學生は選択コースとして受け入れを開始し、平成27年度以降の入學生は必修コースとして適用する。</p>						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	歯学生	40	45	45	45	45	220
							0
							0
							0
	計	40	45	45	45	45	220

教育プログラム・コースの概要

大学名等	東京歯科大学歯学部
教育プログラム・コース名	健康長寿を育む歯学教育プログラム（地域社会に学ぶ新たな歯科医療プロフェSSIONALコース）
対象者	必修コース：歯学生2年次～6年次　選択コース：歯学生2年次～6年次 なお、選択コースは臨床研修医、大学院生に公開講座として受講可能とする。
修業年限（期間）	必修コース：5年　選択コース：5年
養成すべき人材像	人口構成が変化し、地域包括型の医療・介護圏の再構築が進められる中、地域医療の中で周産期から要介護高齢者まで生涯にわたる口腔機能の維持と管理を目的として活躍できる歯科医療従事者が、社会から求められている。 以上のことから、下記のような人材を養成する。 ・患者とその周囲の医療・介護・福祉・保健に携わる人々から十分な情報を引き出し、連絡調整することができる人材 ・様々な幅広い医学的・社会的知識を持ち、患者を取り巻く社会環境に見合った最適な歯科医療を提供し、生活の質の向上を図ることができる人材 ・口腔機能の維持と管理が、健康増進と維持にいかに関わるかを地域住民に啓発し、歯科医療を通じて地域の保健活動に貢献できる人材 ・生活習慣病をはじめとしたcommon diseaseの知識を有し、的確に患者の全身状態を評価して安心・安全な歯科医療を提供できる人材
修了要件・履修方法	必修コース（平成27年度以降入学者対象） 共有必修科目及び個別必修科目の全ての授業を受講すること。なお、共有必修科目は、e-learningやDVDを用いた履修を行うことも許可する。修了要件は、レポート提出・筆記・客観試験に合格すること。合格した場合、2単位を与える。 選択コース（平成26年度入学までの在校生対象） 在学する年次以降の、必修コースと全く同じ科目を全て受講すること。共有必修科目はe-learningやDVDを用いた履修を行うことも許可する。修了要件はレポート提出・筆記・客観試験に合格すること。合格した場合、2単位を与える。
履修科目等	<共有必修科目> 摂食嚥下のメカニズム（3h）、長寿を支える硬組織バイオロジー（3h）、異分野融合型先端歯学・歯科医療（3h）、テイラード・コミュニケーション概論（3h）、地域連携と摂食支援（3h）　計15時間 <個別必修科目> 臨床社会歯科学（3h）、実践コミュニケーションと臨床倫理（3h）、内科症候学（生体制御機能）（3h）、口腔機能と生体制御（6h）、歯科患者の全身異常と初期救急対応（3h）　計18時間
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	コミュニケーション能力の涵養のために模擬患者を資源とする場合が多い。模擬患者に求められているのは“標準的”でいかなる状況でも“再現性”の高い対応ができることである。コミュニケーション技法に対する評価の標準化という点で優れているものの、診療の現場で遭遇する“個性”をもった患者に対して、好ましい態度で、状況を判断した上で対応する能力を身に着ける訓練には対応しきれていない。

	<p>このような能力の修得には、文部科学省の支援を受け我々が取り組んでいる Patient Community (P-Com)のメンバーによる学生教育が適している。P-Comメンバーは歯科医学教育への協力を賛同して登録された患者や父兄会会員などで構成され、学生教育の現場において、ある幅の範囲の“個性”を有し、状況により異なる対応をして頂いている。このような様々な個性のある患者に対する単なる技法を超えたコミュニケーション能力を我々は“テイラード・コミュニケーション”と名づけている。</p> <p>コミュニケーション学は1年次から実施しており、“標準的”な患者への対応技法は十分に訓練される。2年次以降P-Comメンバー参加のコミュニケーション学を順次増やし、それぞれに“個性”を持った個々の患者に対応できる歯科医師の養成教育となっている。個々の患者のnarrativeを重視し、様々な患者が持つ希望や社会環境に対応するべく、臨床倫理の手法に基づく症例検討を行い、EBMとNBMを踏まえた総合診療計画の立案能力の向上を図る。</p> <p>また、本学は附属病院の一つに23診療科570床の市川総合病院を有し、臨床実習において幅広い医学的知識の習得とチーム医療の参加型実習を行ってきた。1981年にはオーラルメディスン・口腔外科学講座が設立され、医療全体の中での歯科医療の重要性に注目した教育と研究も実践してきた。また、医師（医科教員）によるマルチメディア教材を使用した臨床講義・実習を行って幅広い医学教育を行ってきた。その実績を活かして新たに4,5年次に生体制御機構からみた内科症候学の講義と実習を構築し、全身的な評価を行うことができる知識と態度を涵養する。そのために、全身管理に必要な知識・技能・態度の効率的・効果的な習得を支援するためのスキルズ・ラボを構築し、全ての学生に歯科診療に際して理解しておくべき医科の典型的な症例を疑似体験させることで高いレベルでの教育効果を実現するものである。口腔と全身との関わり、高齢者や医学的問題点を有する患者等への対応などを疑似体験しながら、臨床現場での実習と組み合わせることにより効率的・効果的な学習を推進する。</p>						
指導体制	<p>副学長及び教務部長が、緊密に連携し本コースの企画・運営を担当する。各科目の授業内容の決定は、教務副部長及び科目の責任者が合同で行う。実際の授業は本学教員及び連携大学の教員が担当する。教務部・歯科医学教育開発センターにおいて、決定された授業内容の確認を行うとともに、授業担当が行う実際の授業について直接参観あるいはビデオ撮影し適切な授業であるかをチェックする。</p>						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<p>本コース修了者は、現在予定している初期臨床研修におけるカリキュラムを履修させる。大学院は、関連する分野（本学あるいは連携大学）に進学して教育研究を行い、学位取得を目指す。その後に関連学会の専門医等取得後、健康長寿に貢献できる歯科医療人として、様々な部門（教職、研究職、行政職、病院勤務、企業研究所勤務等）で活躍する。</p>						
受入開始時期	<p>平成26年12月から開始※ ※平成26年度までの在學生は選択コースとして受け入れを開始し、平成27年度以降の入學生は必修コースとして適用する。</p>						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	歯学生	128	128	128	128	128	640
							0
							0
							0
	計	128	128	128	128	128	640

教育プログラム・コースの概要

大学名等	日本歯科大学生命歯学部
教育プログラム・コース名	健康長寿を育む歯学教育プログラム（地域連携ケアコース）
対象者	必修コース：歯学生2年次～5年次　　選択コース：歯学生2年次～5年次 なお、選択コースは臨床研修医、大学院生に公開講座として受講可能とする。
修業年限（期間）	必修コース：4年　　選択コース：4年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域住民が住み慣れた土地で生き生きとした質の高い生活が送れるように、医療・介護・福祉の有機的な連携に基づく地域包括ケアシステムを構築できる人材 ・ 高次脳機能や四肢体幹機能の発達や減退に対する知識、リハビリテーション医学に関する知識、口腔機能に影響を及ぼす様々な疾患に関する知識のある人材 ・ 要介護者への食べることへの支援を通じ、人間としての尊厳を保つための援助である生活支援や人生支援ができる人材
修了要件・履修方法	<p>必修コース（平成27年度以降入学者対象） 共有必修科目及び個別必修科目の全ての授業を受講すること。なお、共有必修科目は、e-learningやDVDを用いた履修を行うことも許可する。修了要件は、レポート提出・筆記試験に合格すること。合格した場合、2単位を与える。</p> <p>選択コース（平成26年度までの在校生対象） 必修コースと全く同じ科目を全て受講すること。共有必修科目はe-learningやDVDを用いた履修を行うことも許可する。修了要件はレポート提出・筆記試験に合格すること。合格した場合、2単位を与える。</p>
履修科目等	<p><共有必修科目> 摂食嚥下のメカニズム（3h）、長寿を支える硬組織バイオロジー（3h）、異分野融合型先端歯学・歯科医療（3h）、テイラード・コミュニケーション概論（3h）、地域連携と摂食支援（3h）　計15時間</p> <p><個別必修科目> 摂食機能の発達と障害（3h）、老年症候群に対する歯科の関わり（3h）、多職種協働に必要なコミュニケーション（3h）、栄養の評価と指導（3h）、地域連携と摂食支援（3h）　計15時間</p>

<p>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</p>	<p>①健康に長生きするためには、口腔が健全に機能し、十分な栄養が摂取できることが必要である。口腔（摂食）機能の問題は、乳幼児から高齢者まで全ての年代にわたるが、超高齢化社会を迎えた現在、この機能に問題を有する要介護高齢者は増加しており、その支援が強く求められている。摂食機能の中心をなす「口」への支援は、歯科医療なくては成しえない。日本歯科大学生命歯学部では、従来より口腔（摂食）機能とその診療に関し、積極的に推進してきた。学部教育で、口腔機能の知識・技術を積極的に導入し、健康長寿に歯科医師が広範囲に貢献できるようにすることは、新規性がある。</p> <p>②歯科医療と多職種協働の最前線となるべく、日本歯科大学生命歯学部は東京都西部の小金井市に、口腔リハビリテーション多摩クリニックを開設した。このクリニックでは、「食の支援」と「地域連携」を主題に、卒後歯科教育である口腔リハビリテーションに力を注ぎ、優秀な臨床医を生み出している。この経験を活かし、複数年にわたる学生教育を行い、子供たちへの健全な口腔機能の発達から、加齢や疾患による口腔機能低下に対する予防やリハビリテーションまでのより深い知識を持ち、地域連携を構築できる歯科医師を養成する。</p> <p>③医療・介護・福祉の有機的な連携に基づく地域包括ケアシステムを構築するには、熟練した技術と専門知識の習得、多職種とのコミュニケーション能力の向上が求められる。特に多職種とのコミュニケーション能力の開発には、実際の在宅や施設の介護の場に出向き、利用者や家族からの評価を得る必要がある。既に患者からの評価が必須の診療参加型臨床実習を行い、在宅や施設における歯科医療の卒後教育で実績のある本学では、介護の場でのコミュニケーション教育を自信を持ってすすめられる。</p>						
<p>指導体制</p>	<p>学部長及び教務部長が、緊密に連携し本コースの企画・運営を担当する。各科目の授業内容の決定は、教務部長、教務副部長及び科目の責任者が合同で行う。実際の授業は本学教員及び連携大学の教員が担当する。教務部と教育開発委員会は決定された授業内容の確認を行うとともに、授業担当者が行う実際の授業について直接参観あるいはビデオ撮影等を行い適切な授業であるかをチェックする。</p>						
<p>教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想</p>	<p>本コース修了者は、現在予定している初期臨床研修におけるカリキュラムを履修させる。大学院は、関連する分野（本学あるいは連携大学）に進学して教育研究を行い、学位取得を目指す。その後に関連学会の専門医等取得後、健康長寿に貢献できる歯科医療人として、様々な部門（教職、研究職、行政職、病院勤務、企業研究所勤務等）で活躍する。</p>						
<p>受入開始時期</p>	<p>平成26年12月から開始※ ※平成26年度までの在学学生は選択コースとして受け入れを開始し、平成27年度以降の入学者は必修コースとして適用する。</p>						
<p>受入目標人数</p>	<p>対象者</p>	<p>H26年度</p>	<p>H27年度</p>	<p>H28年度</p>	<p>H29年度</p>	<p>H30年度</p>	<p>計</p>
	<p>歯学生</p>	<p>128</p>	<p>128</p>	<p>128</p>	<p>128</p>	<p>128</p>	<p>640</p>
							<p>0</p>
							<p>0</p>
							<p>0</p>
	<p>計</p>	<p>128</p>	<p>128</p>	<p>128</p>	<p>128</p>	<p>128</p>	<p>640</p>

5大学が連携して組織する 健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム

超高齢社会の問題点

平均寿命と健康寿命との差が拡大

国家財政の圧迫と国力の低下

医療費や介護給付費等の社会保障負担の増大

快適に、食べる、味わう、話す、呼吸するための
口腔の健康増進

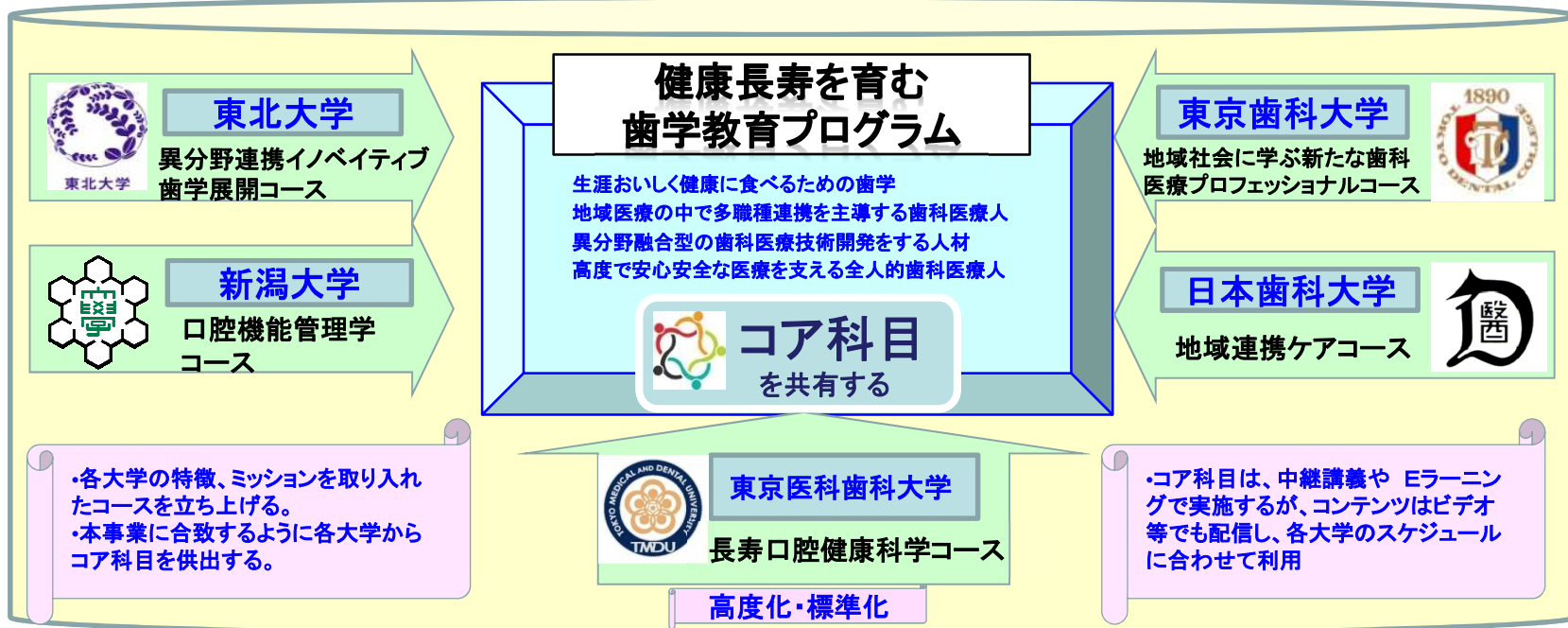
多領域専門知識の集約によるライフステージに応じた
シームレス/ボーダレスな教育プログラム

— 社会の成長と生活の質向上の為には健康長寿社会の実現が必須 —



連携の重要性

各大学ではすでに独自の教育を実施してきたが...



東京大学
高齢社会総合研究棟
在宅医療学拠点

新潟市社会福祉施設

口腔リハビリテーション
多摩クリニック

連携した卒業プログラム（臨床研修医・大学院）構築へ

・各大学の特徴、ミッションを取り入れたコースを立ち上げる。
・本事業に合致するように各大学からコア科目を供出する。

・コア科目は、中継講義や Eラーニングで実施するが、コンテンツはビデオ等でも配信し、各大学のスケジュールに合わせて利用

課題解決

今後急速に高齢化する
アジア各国へ
日本のプログラムを
世界標準化

健康長寿に貢献する新しい歯科医療人の養成

本事業を通じて作成されたシラバスや授業コンテンツを全国へ普及